

I44	14
I66	14
K65	14
S92	14
G40	13
I60	13
J32	13
M17 9	13
R06	13
B17 1	12
C25	12
E05	12
I69	12
M15	12
R56	12
S83 2	12
C23	11
C54 9	11
D64 9	11
J36	11
M65	11
S62	11
T14	11
A41	10
D18	10
D43	10
E04	10
G61 0	10
I42	10
J04	10
K26	10
K70	10
N02	10
N21	10
O62	10
P95	10
T82	10
Z30	10

(2) 在院日数別の診断名

調査対象者のうち、1入院のデータが収集された患者 5,800 名の在院日数別の ICD10 の種類について分析を行なった。在院日数 1 日の患者は、285 名であるが診断の種類は、135 種類であった。在院日数 2 日の患者は、731 名でその診断名の種類は、275 種類を示していた。同様に在院日数 3 日の患者は、773 名でその診断名の種類は、244 種類を示していた。このように在院日数別の分析を行なった際に患者数が比較的多い場合の診断の種類も 200 以上存在している。

一方、30 日間の調査期間であったため、20 日を経過すると患者数は大きく減少する。この結果からは、20 日以上入院している患者は、ほぼ一人一人異なった ICD10 がつけられていることがわかる。

表 3 3 2 在院日数別診断名の種類

在院日数	ICD-10(種類数)	患者数(人)
1日	135	285
2日	275	731
3日	244	773
4日	208	495
5日	223	465
6日	188	446
7日	156	418
8日	186	378
9日	161	306
10日	145	265
11日	109	175
12日	98	146
13日	81	129
14日	93	130
15日	70	113
16日	59	86
17日	64	79
18日	44	55
19日	36	41
20日	42	48
21日	29	37
22日	30	36
23日	30	32
24日	18	19
25日	16	17
26日	12	15
27日	11	11
28日	3	3
29日	6	6
30日	3	3

(3) 入院時、退院時の患者の状態像の変化

一入院患者のうち、入院時直後と退院時直後の状態データが存在する 5,800 名の患者について、入院時と退院時の状態像の比較を行った。

1) 急変の有無

「急変の有無」について、入院時は「なし」が 5,683 名 (98.0%) て、「あり」が 117 名 (2.0%) てあった。一方、退院時は、「なし」が 5,683 名 (98.0%) て、「あり」が 117 名 (2.0%) てあり、ほとんど変化がなかった。

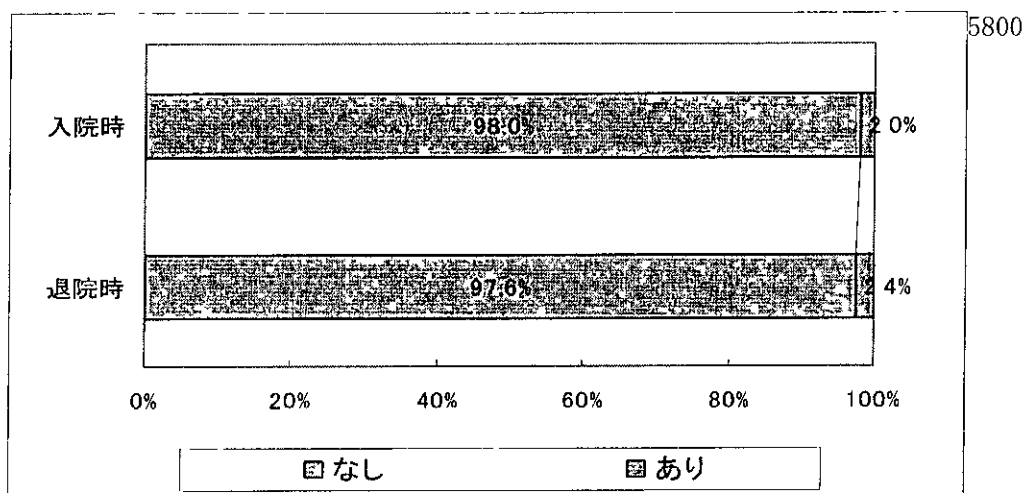


図 3 3 1 急変の有無

2) 時間尿測定の有無

「時間尿測定」について、入院時は「なし」が 5,676 名 (97.9%) で、「あり」が 124 名 (2.1%) であった。一方、退院時は、「なし」が 5,715 名 (98.5%) で、「あり」が 85 名 (1.5%) てあり、若干、測定者が減少している。

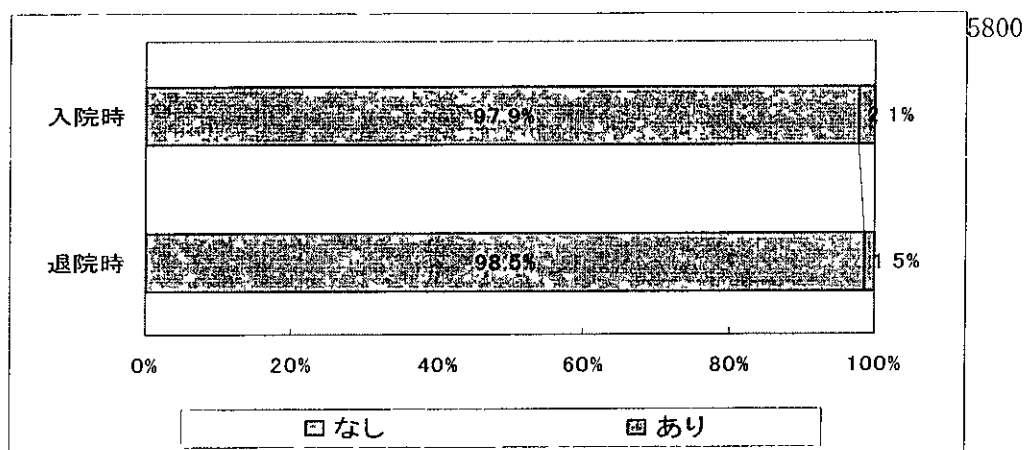


図 3 3 2 時間尿測定の有無

3) 呼吸ケアの有無

「呼吸ケア」について、入院時は「なし」が5,421名(93.5%)で、「あり」が379名(6.5%)であった。一方、退院時は、「なし」が5,478名(94.4%)で、「あり」が322名(5.6%)であった。

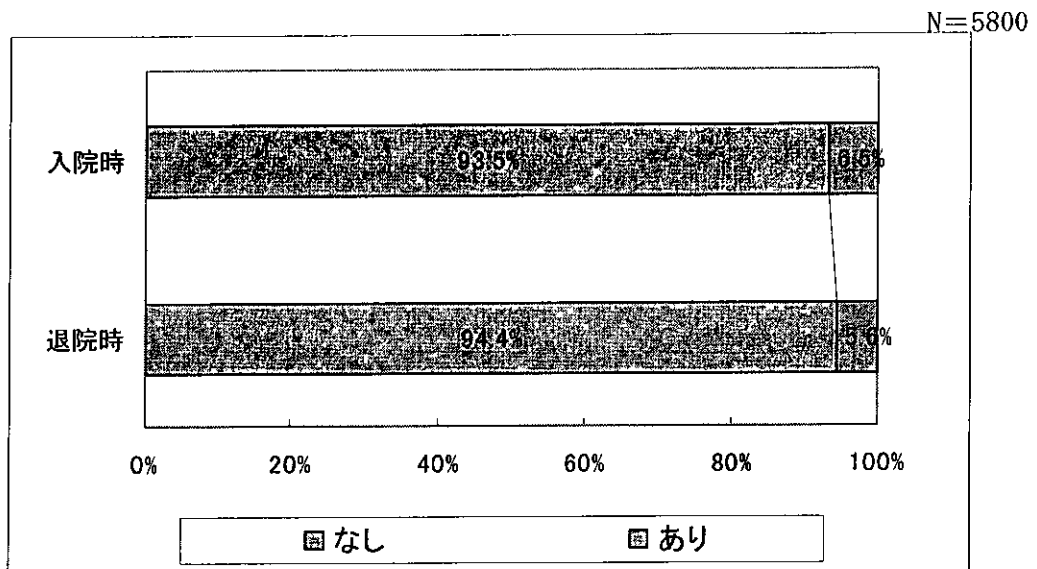


図 3 3 3 呼吸ケアの有無

4) 創傷処置5分以上の有無

「創傷処置5分以上」について、「なし」が5,599名(96.5%)で、「あり」が201名(3.5%)であった。一方、退院時は、「なし」が5,594名(96.4%)で、「あり」が206名(3.6%)であり、ほとんど変化がなかった。

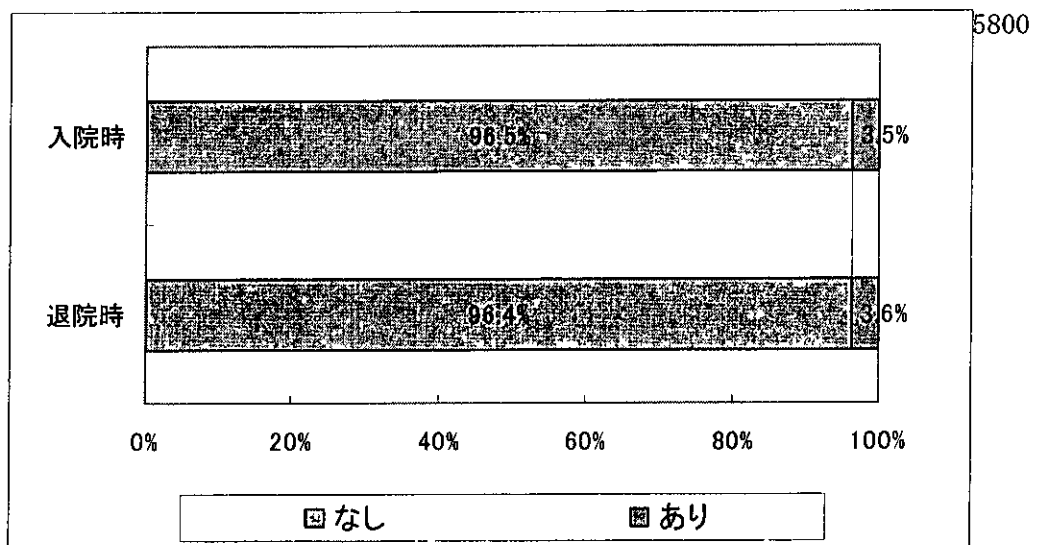
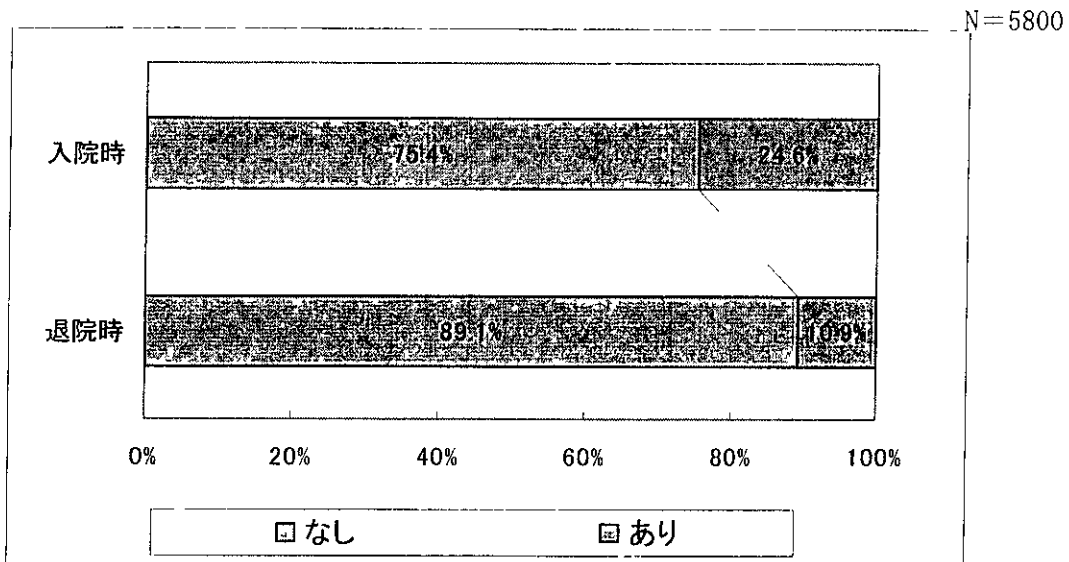


図 3 3 4 創傷処置の有無

5) 計画に基づいた10分以上の計画上の指導の有無

入院時は「なし」が4,372名(75.4%)で、「あり」が1,428名(24.6%)であった。一方、退院時は、「なし」が5,165名(89.1%)で、「あり」が635名(10.9%)であった。退院時には計画上の指導を行なう割合は、わずか1割にすぎない。



6) 10分以上のインフォームトコンセント・意思決定支援

入院時は「なし」が4,947名(85.3%)で、「あり」が853名(14.7%)であった。一方、退院時は、「なし」が5,408名(93.2%)で、「あり」が392名(6.8%)であった。退院時にはインフォームトコンセント・意思決定支援は、ほとんど行われていないことがわかった。

N=5800

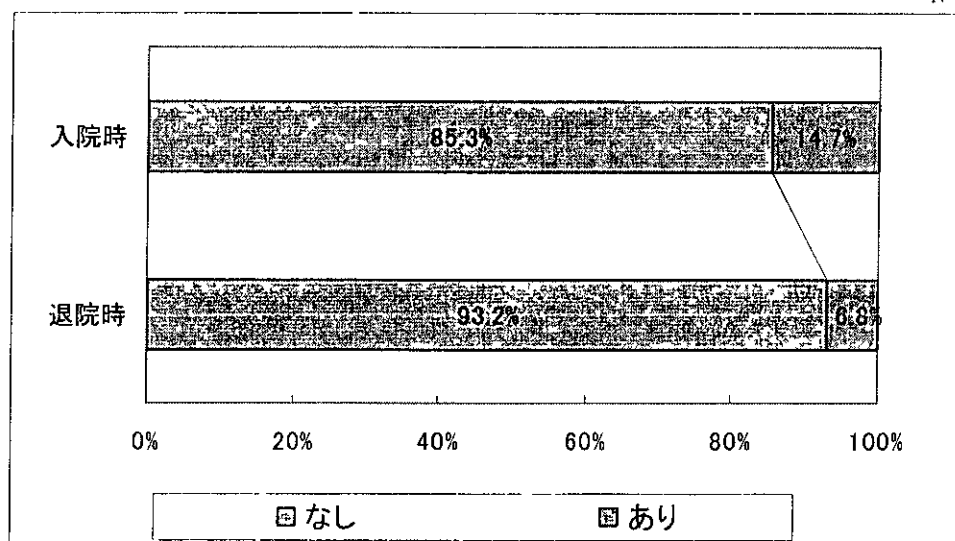


図 3 3 6 10分以上のインフォームトコンセント・意思決定支援

7) 状態

「状態」について、入院時は「改善中」が875名(15.1%)、「変化なし」は4,384名(75.6%)、「状態悪化中」は541名(9.3%)で「変化なし」が7割を超えている。一方、退院時は「改善中」が2,865名(49.4%)、「変化なし」は2,701名(46.6%)、「状態悪化中」は234名(4.0%)で改善中が大きく増加している。

N=5800

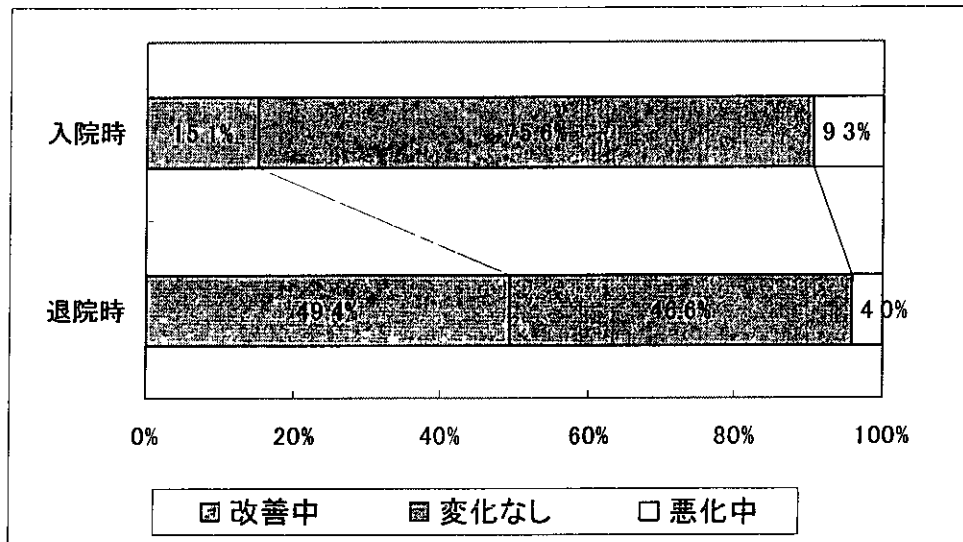


図 3 3 7 状態

8) 安静度

「安静度」は、入院時は「絶対安静」が546名(9.4%)、「一部安静」は1,349名(23.3%)、「安静度なし」は3,905名(67.3%)で安静度なしの割合が5割を超えていた。退院時は「絶対安静」が358名(6.2%)、「一部安静」は750名(12.9%)、「安静度なし」は4,692名(80.9%)であった。

N=5800

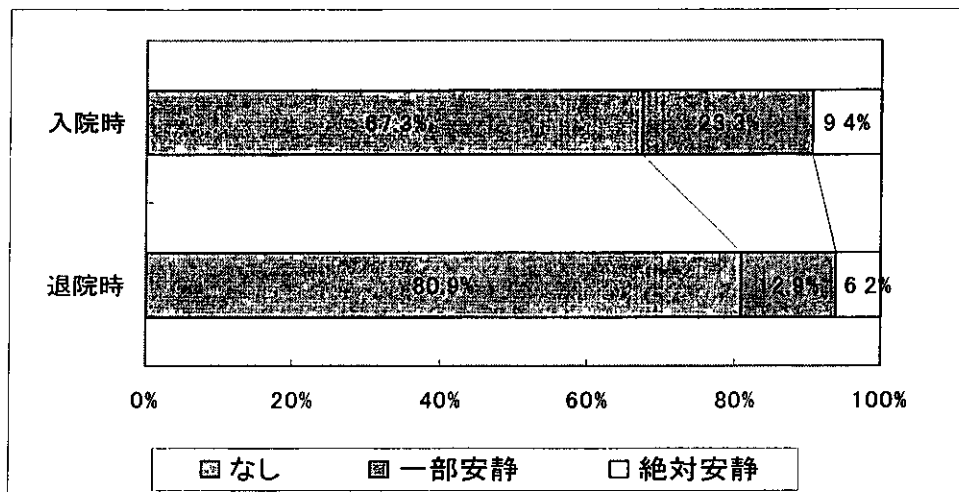


図 3 3 8 安静度

9) 痛み等苦痛を伴う症状のコントロール

入院時は「できている」が 5,306 名 (91.5%) で、「できていない」が 494 名 (8.5%) であった。一方、退院時は「できている」が 5,566 名 (96.0%) で、「できていない」が 234 名 (4.0%) で、退院時に、「できていない」患者の割合が若干減少する。

N=5800

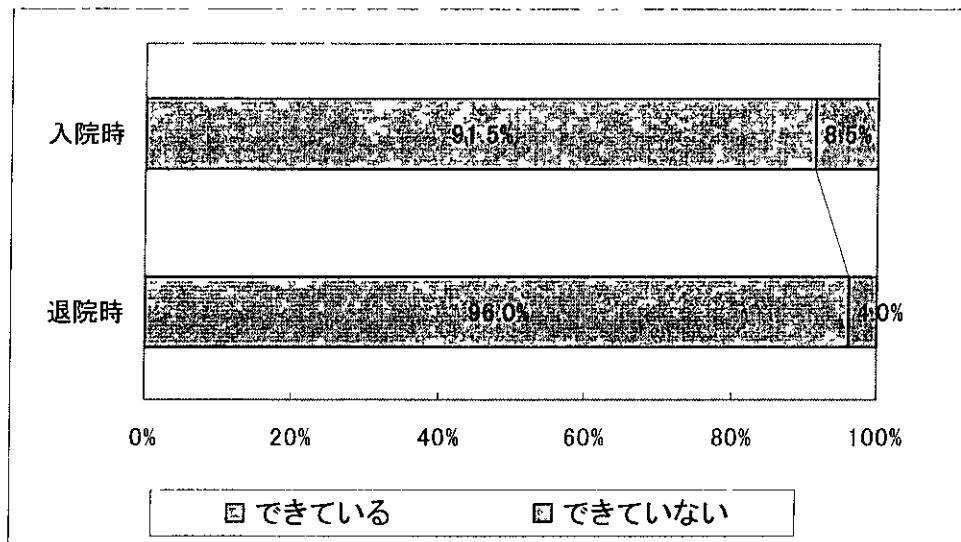


図 3 3 9 痛み等苦痛を伴う症状のコントロール

10) 寝返り

「寝返り」について、入院時は「つかまらないでできる」は 5,008 名 (86.3%)、「何かにつかまればできる」は 283 名 (4.9%)、「できない」は 509 名 (8.8%) で、退院時は「つかまらないでできる」は 5,177 名 (89.3%)、「何かにつかまればできる」は 185 名 (3.2%)、「できない」は 438 名 (7.6%) であった。

N=5800

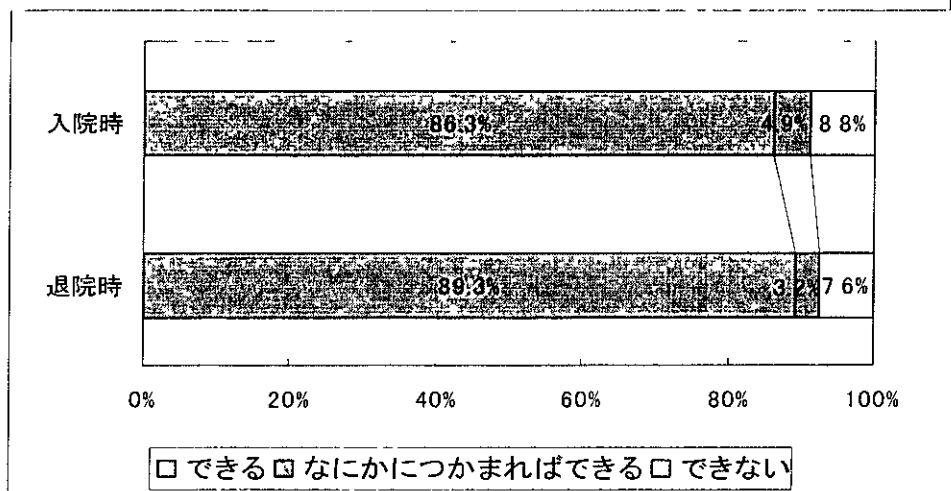


図 3 3 10 寝返り

11) 起き上がり

「起き上がり」について、入院時は「できる」が4,777名(82.4%)、「何かにつかまればできる」は362名(6.2%)、「できない」は661名(11.4%)で、退院時は、「できる」は5,037名(86.8%)、「何かにつかまればできる」は252名(4.3%)、「できない」は511名(8.8%)で退院時には、起き上がりができる割合が増加している。

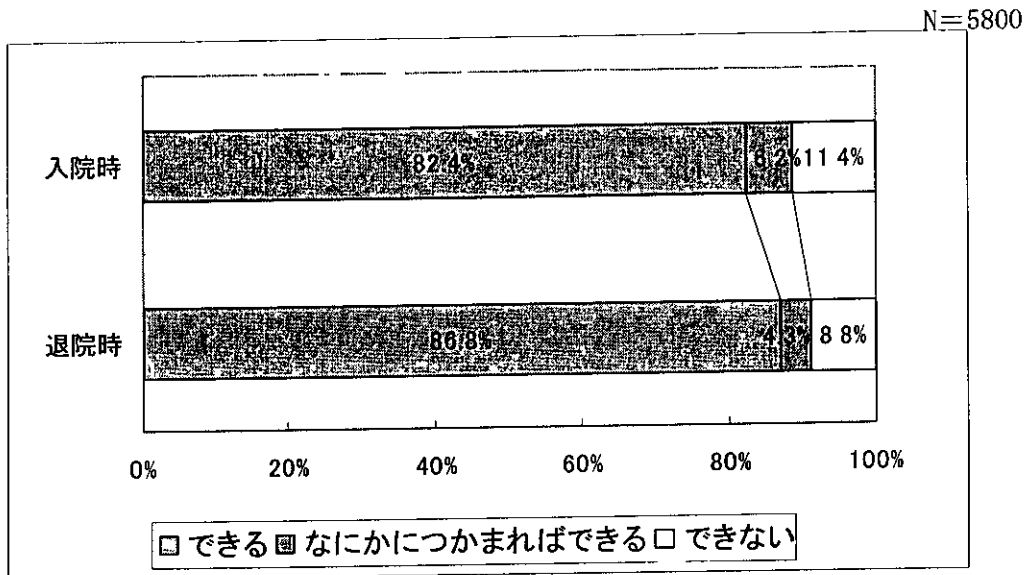


図 3 3 11 起き上がり

12) 両足がつかない状態での座位保持

入院時は、「できる」が4,780名(82.4%)、「手支持でできる」は199名(3.4%)、「背もたれ必要」は153名(2.6%)、「できない」は668名(11.5%)で、退院時は、「できる」は5,039名(86.9%)、「手支持でできる」は112名(1.9%)、「背もたれ必要」は125名(2.2%)、「できない」は524名(9.0%)であった。

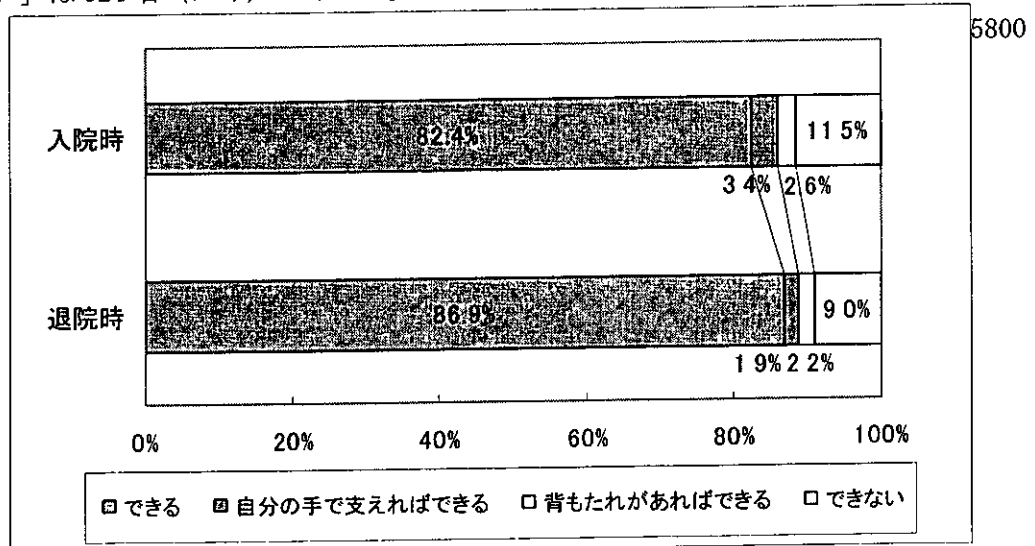


図 3 3 12 座位保持 (両足つかない)

13) 移乗

「移乗」について、入院時は、「自立」が4,331名(74.7%)、「見守り・一部介助が必要」は661名(11.4%)、「全介助」は808名(13.9%)で、退院時は、「自立」は4,732名(81.6%)、「見守り・一部介助が必要」は440名(7.6%)、「全介助」は628名(10.8%)で大幅に自立が増加している。

N=5800

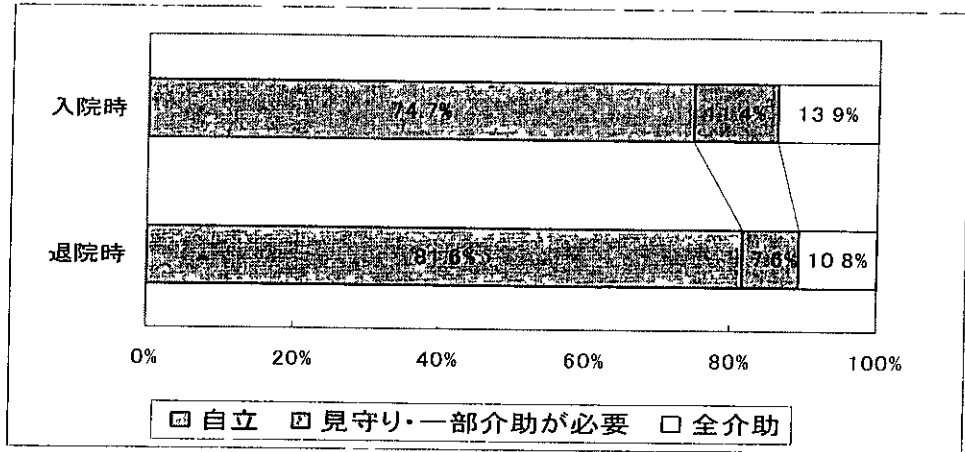


図 3 3 13 移乗

14) 移動方法 (主なもの1つを選択)

移動方法は、入院時は、歩行が4184名(72.1%)、杖歩行が120名(2.1%)、つたい歩きが84名(1.4%)、歩行器が35名(0.6%)、車いす自力走行が43名(0.7%)、車いす介助走行が460名(7.9%)、その他が874名(15.1%)であり、退院時は、歩行が4580名(79.0%)、杖歩行が136名(2.3%)、つたい歩きが69名(1.2%)、歩行器が41名(0.7%)、車いす自力走行が49名(0.8%)、車いす介助走行が282名(4.9%)、その他が643名(11.1%)であり、退院時には、自立歩行の割合が増加し、一方で、車椅子の介助歩行が大きく減少している。

N=5800

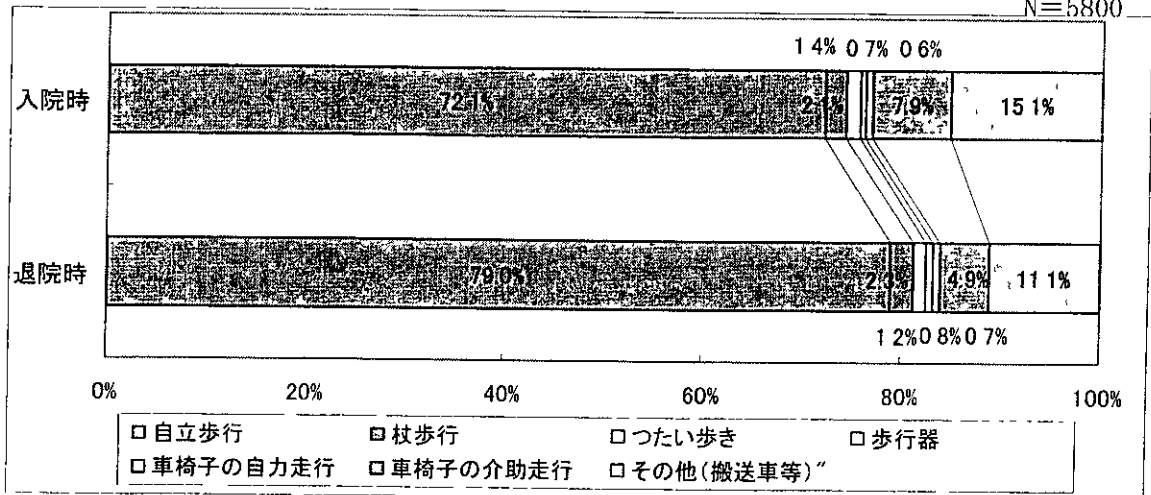


図 3 3 14 移動方法について

15) 口腔清潔

「口腔清潔」について、入院時は、「自立」が 4,597 名 (79.3%)、「一部介助」は 687 名 (11.8%)、「全介助」は 516 名 (8.9%) であり、退院時は、「自立」は 4,893 名 (84.4%)、「一部介助」は 434 名 (7.5%)、「全介助」は 473 名 (8.2%) であった。

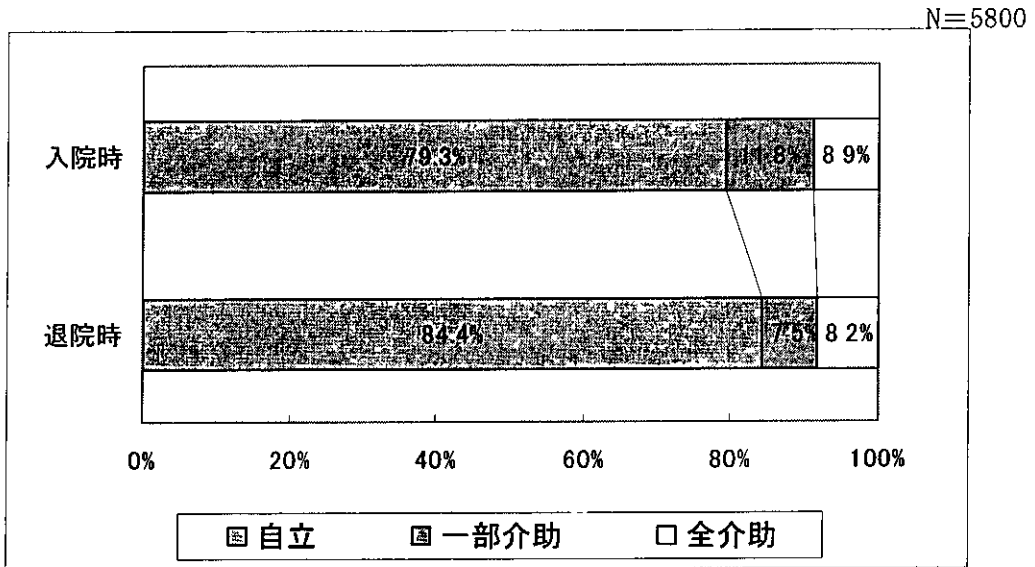


図 3 3 15 口腔清潔(はみがき等)

16) 洗髪

「洗髪」について、入院時は「自立」が 3,986 名 (68.7%)、「一部介助」は 662 名 (11.4%)、「全介助」は 1,152 名 (19.9%) で、退院時は「自立」が 4,236 名 (73.0%)、「一部介助」は 511 名 (8.8%)、「全介助」は 1,053 名 (18.2%) であった。

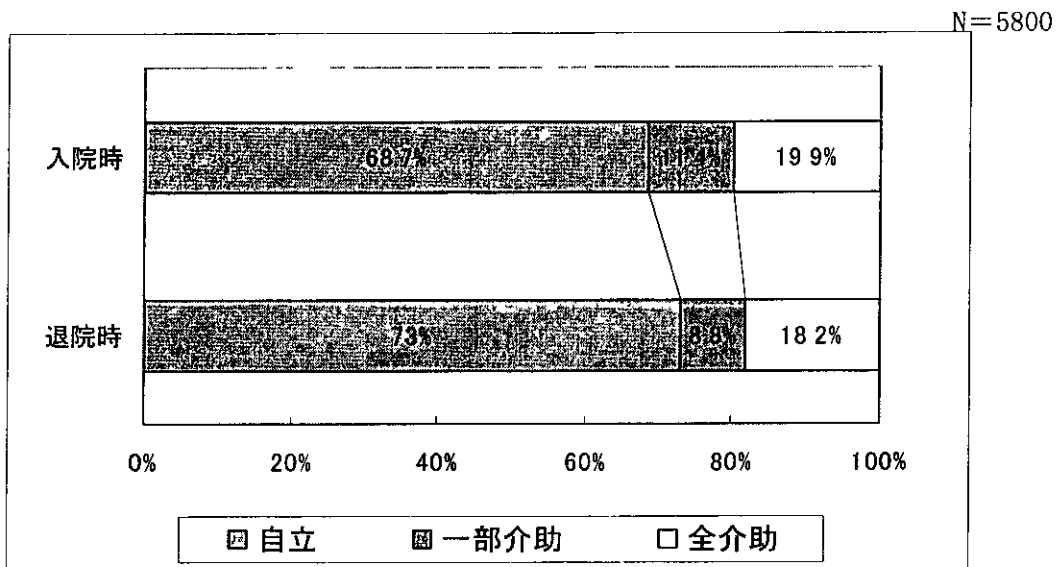


図 3 3 16 洗髪

17) 洗顔

「洗顔」について、入院時は、「自立」が4,395名(75.8%)、「一部介助」は733名(12.6%)、「全介助」は672名(11.6%)であり、退院時は、「自立」が4,677名(80.6%)、「一部介助」は510名(8.8%)、「全介助」は613名(10.6%)であった。

N=5800

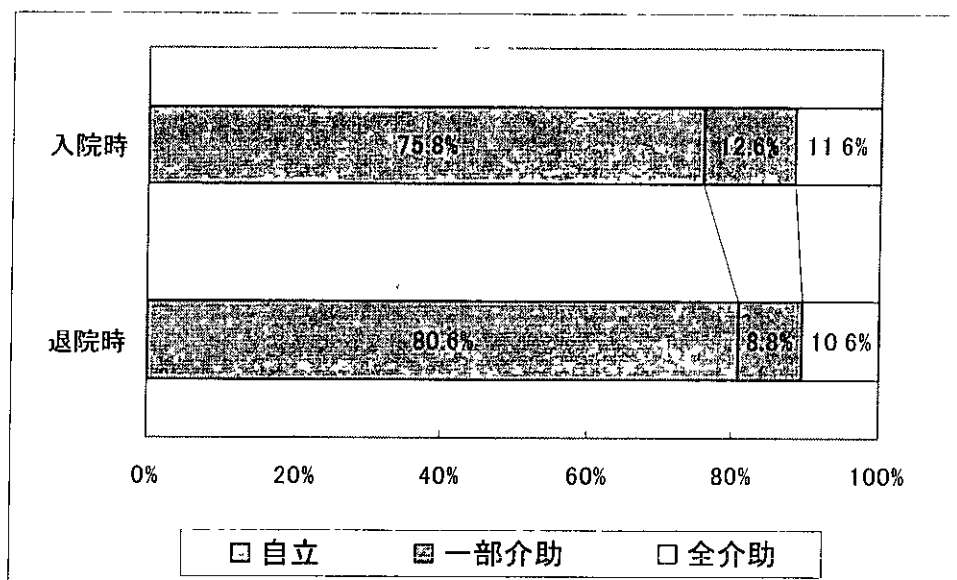


図 3 3 17 洗顔

18) とちらかの手を胸元まで持ち上げられるか

「とちらかの手を胸元まで持ち上げられるか」について、入院時は「できる」が5,652名(97.4%)、「できない」は148名(2.6%)、退院時は「できる」が5,616名(96.8%)、「できない」は184名(3.2%)で退院時のほうがわずかなから、能力が低下している。

N=5800

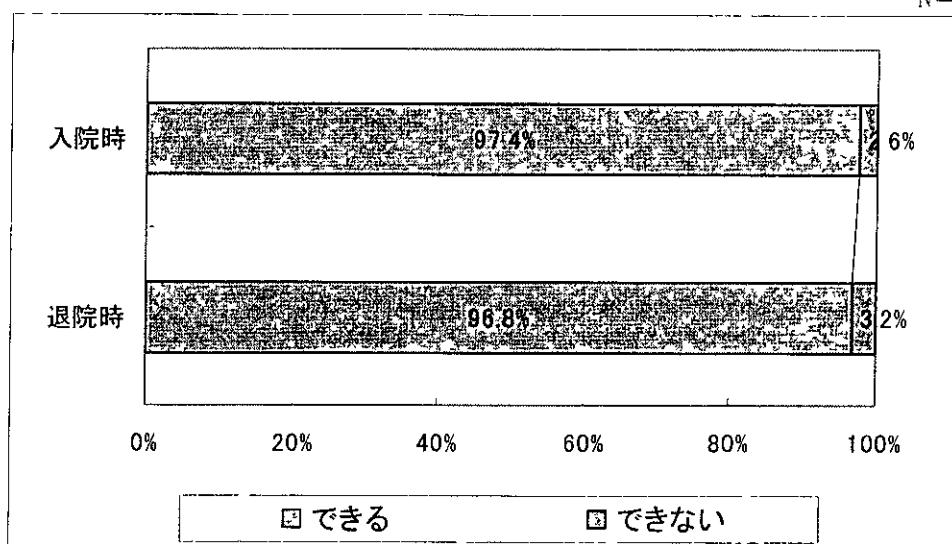


図 3 3 18 とちらかの手を胸元まで持ち上げられるかについて

19) 食事摂取

「食事摂取」について、入院時は「自立」が 5,063 名 (87.3%)、「一部介助」は 334 名 (5.8%)、「全介助」は 403 名 (6.9%) であり、退院時は「自立」が 5,063 名 (87.8%)、「一部介助」は 334 名 (4.8%)、「全介助」は 403 名 (7.4%) で全く変化が無かった。

N=5800

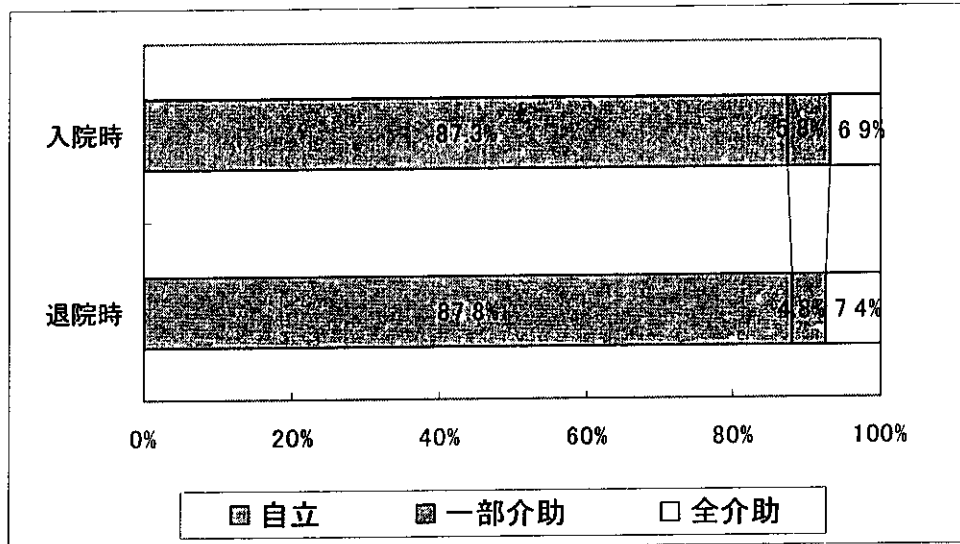


図 3 3 19 食事摂取について

20) 食事摂取困難・嚥下困難

「食事摂取困難・嚥下困難」について、入院時は「なし」が 5,564 名 (95.9%) で、「あり」が 236 名 (4.1%) で、退院時は「なし」が 5,592 名 (96.4%) で、「あり」が 208 名 (3.6%) であつた。

N=5800

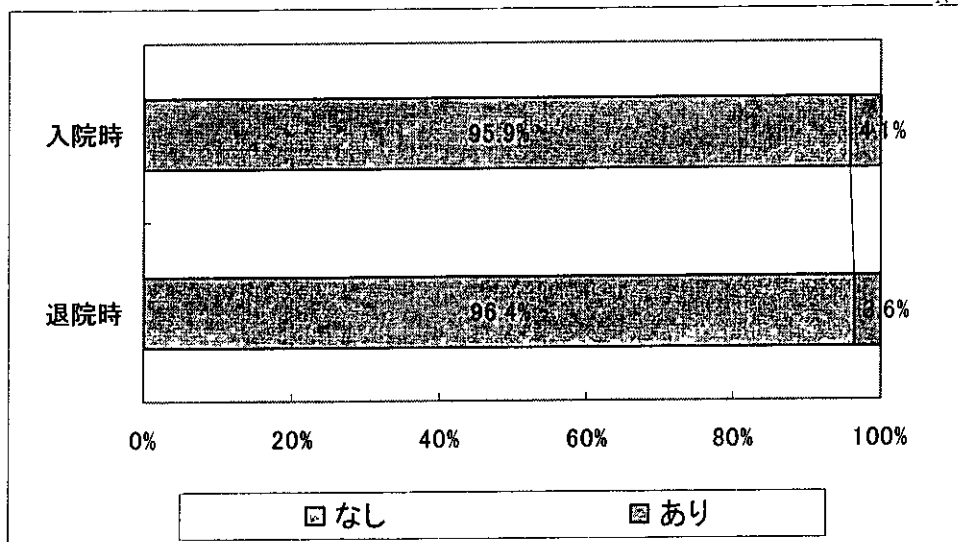


図 3 3 20 食事摂取困難・嚥下困難について

21) おむつの使用

「おむつの使用」について、入院時は「なし」が 5,006 名 (86.3%) で、「あり」が 794 名 (13.7%) で、退院時は「なし」が 5,008 名 (86.3%) で、「あり」が 792 名 (13.7%) とほとんど変化かない。

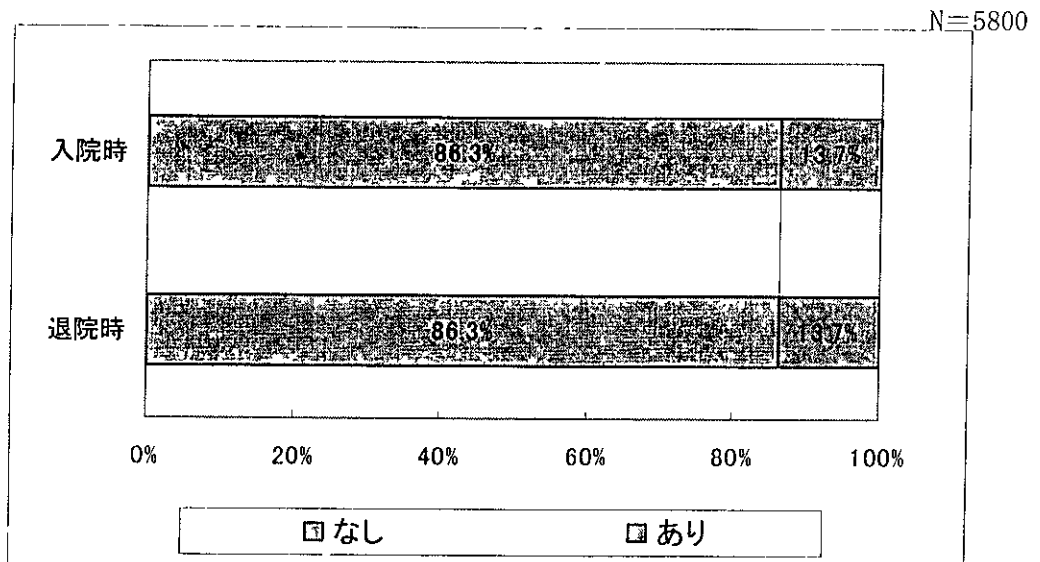


図 3 3 21 おむつの使用

22) ポータブルトイレの使用

入院時は「なし」は 5,488 名 (94.6%)、「使用は自立」は 145 名 (2.5%)、「一部介助」は 104 名 (1.8%)、「全介助」は 63 名 (1.1%) で、退院時は「なし」は 5,571 名 (96.1%)、「使用は自立」は 103 名 (1.8%)、「一部介助」は 66 名 (1.1%)、「全介助」は 60 名 (1.0%) で退院時のポータブルトイレの使用者が若干、減少する。

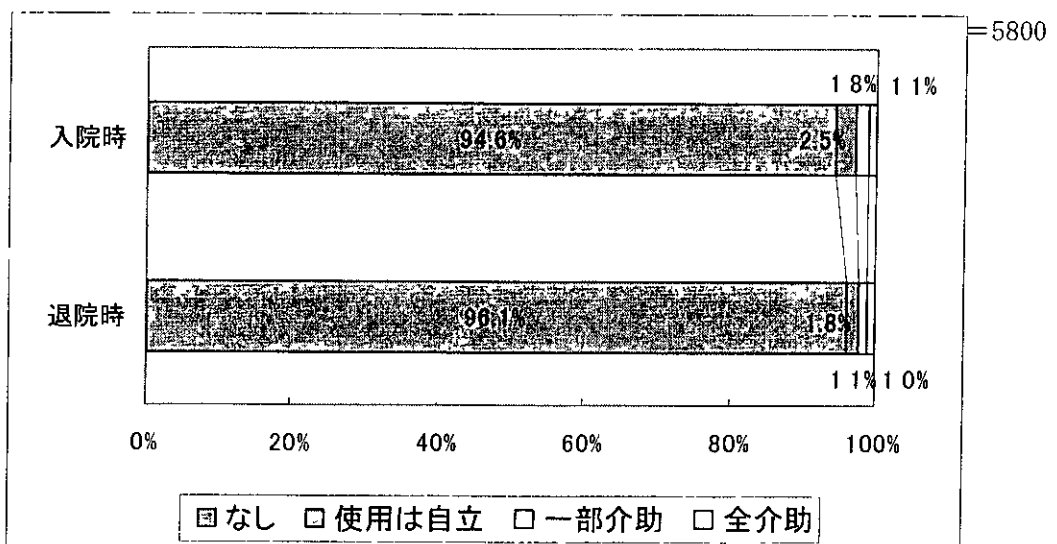


図 3 3 22 ポータブルトイレの使用

23) スボン・パンツの着脱

「スボン・パンツの着脱」について、入院時は「自立」が4,823名(83.2%)、「一部介助」は493名(8.5%)、「全介助」は484名(8.3%)であり、退院時は「自立」が5,005名(86.3%)、「一部介助」は332名(5.7%)、「全介助」は463名(8.0%)で自立者の割合が増加する。

N=5800

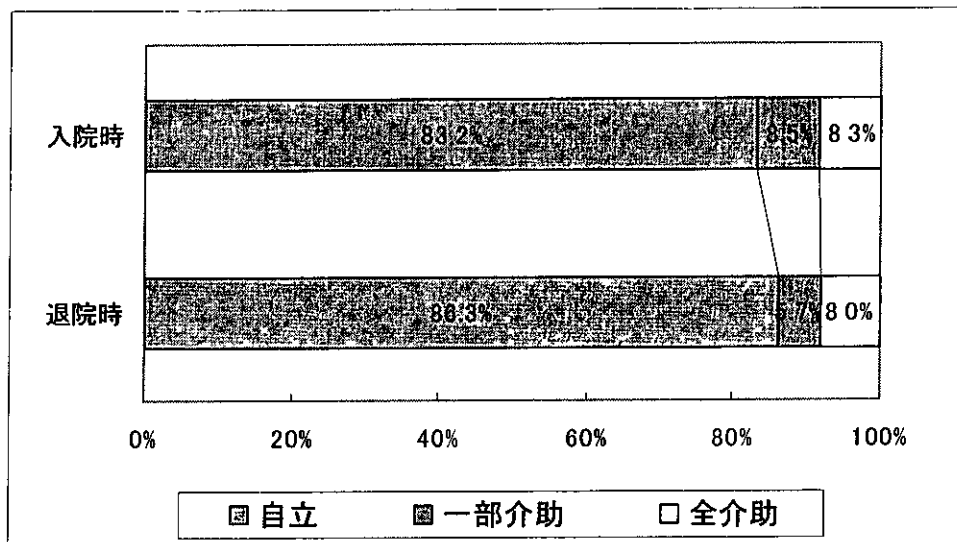


図 3 3 23 スボン・パンツの着脱

24) 他者への意思伝達

「他者への意思伝達」について、入院時は「できる」が5,106名(88.0%)、「ときどきできる」は264名(4.6%)、「困難・できない」は430名(7.4%)であり、退院時は「できる」が5,107名(88.1%)、「ときどきできる」は244名(4.2%)、「困難・できない」は449名(7.7%)でほとんど変化はみられなかった。

N=5800

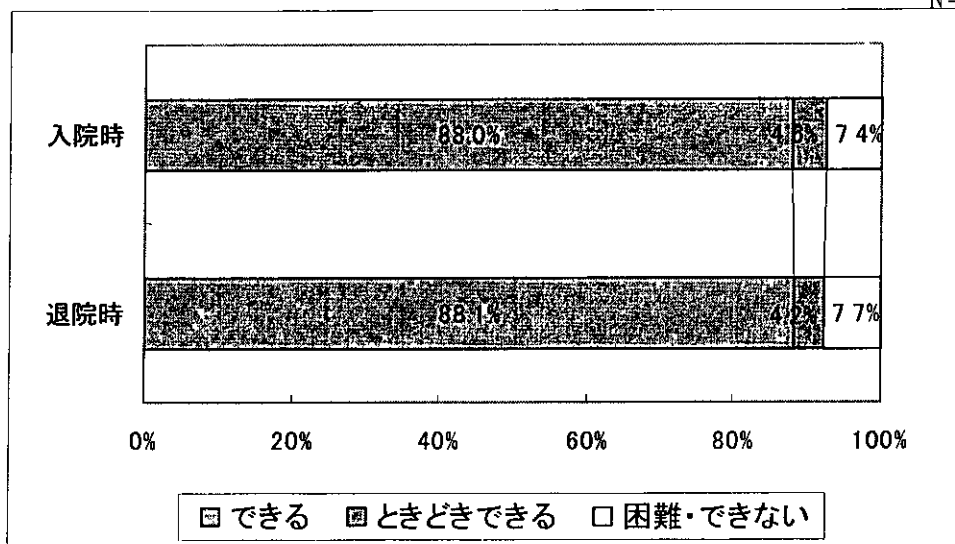


図 3 3 24 他者への意思伝達

25) 医療従事者からの指示の理解

「医療従事者からの指示の理解」について、入院時は「できる」が5,026名(86.7%)、「ときどきできる」は327名(5.6%)、「困難・できない」は447名(7.7%)であり、退院時は「できる」が5,030名(86.7%)、「ときどきできる」は294名(5.1%)、「困難・できない」は476名(8.2%)でほとんど変化は見られない。

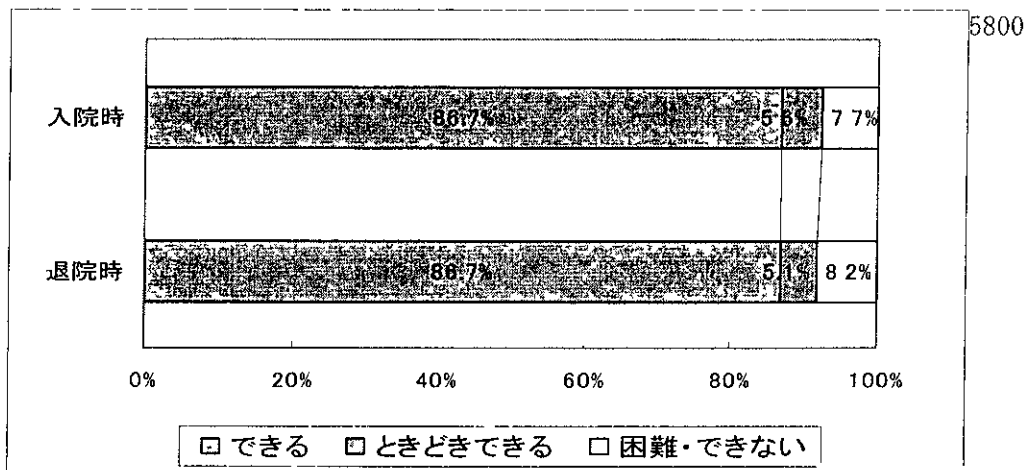


図 3 3 25 医療従事者からの指示の理解

26) 不安

「不安」について、入院時は「なし」が2,871名(49.5%)、「軽度」は1,999名(34.5%)、「中等度」は491名(8.5%)、「重度・パニック」は30名(0.5%)、「判断不能」は409名(7.1%)で、退院時は「なし」が3,777名(65.1%)、「軽度」は1,359名(23.4%)、「中等度」は215名(3.7%)、「重度・パニック」は29名(0.5%)、「判断不能」は420名(7.2%)で退院時に大きく不安感が減少することか明らかとなった。

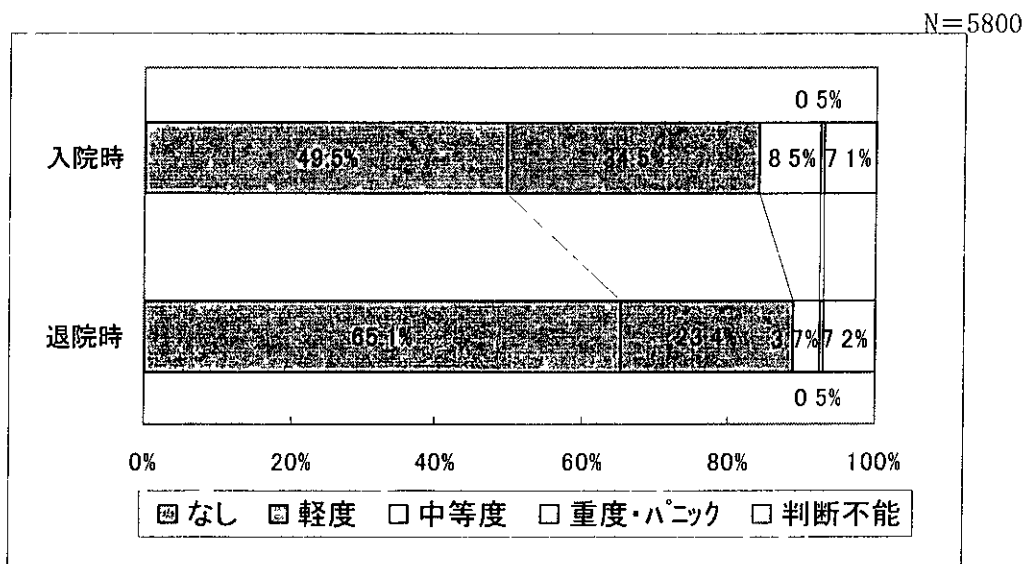


図 3 3 26 不安

27) 目的もなく動き回る

「目的もなく動き回る」という問題行動の発現は、入院時は「なし」が5,631名(97.1%)、「ときどきあり」は102名(1.8%)、「あり」は67名(1.2%)であり、退院時は「なし」が5,575名(96.1%)、「ときどきあり」は135名(2.3%)、「あり」は90名(1.6%)でわずかに減少する。

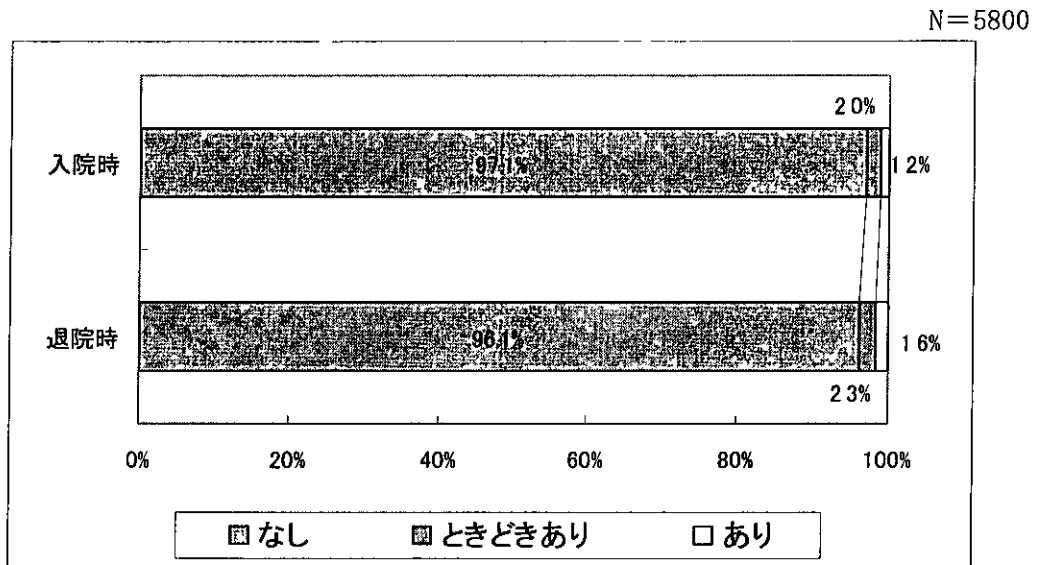


図 3 3 27 目的もなく動き回る

28) 外に出たがり目が離せない

「外に出たがり目が離せない」という問題行動は、入院時は「なし」が5,650名(97.4%)、「ときどきあり」は86名(1.5%)、「あり」は64名(1.1%)であり、退院時は「なし」が5,615名(96.8%)、「ときどきあり」は109名(1.9%)、「あり」は76名(1.3%)でわずかに問題行動の発現が減少する。

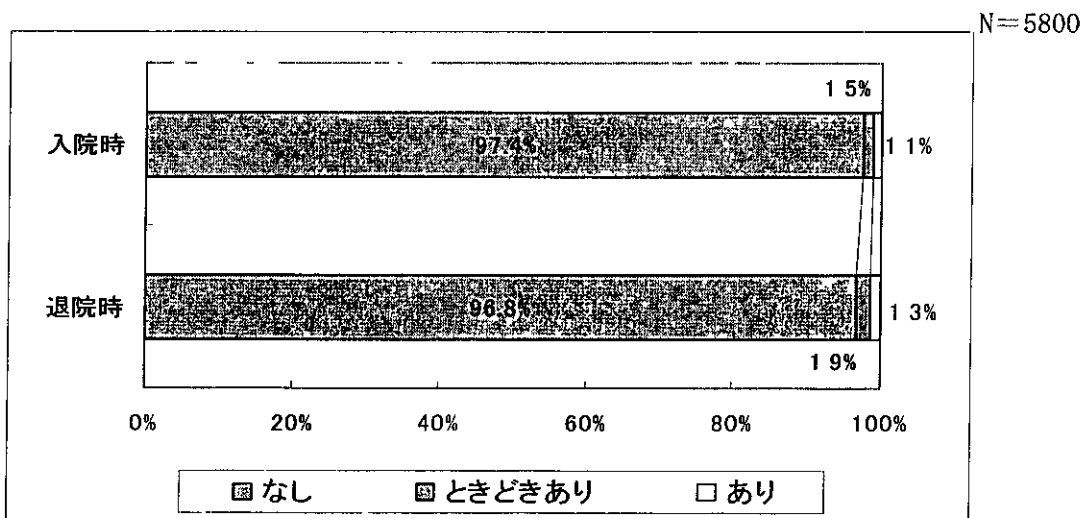


図 3 3 28 外に出たがり目が離せない

29) 処置や治療に対して抵抗する

「処置や治療に対して抵抗する」という問題行動は、入院時は「なし」が5,448名(93.9%)、「ときどきあり」は147名(2.5%)、「あり」は205名(3.5%)であり、退院時は「なし」が5,471名(94.3%)、「ときどきあり」は134名(2.3%)、「あり」は195名(3.4%)でわずかではあるが減少する。

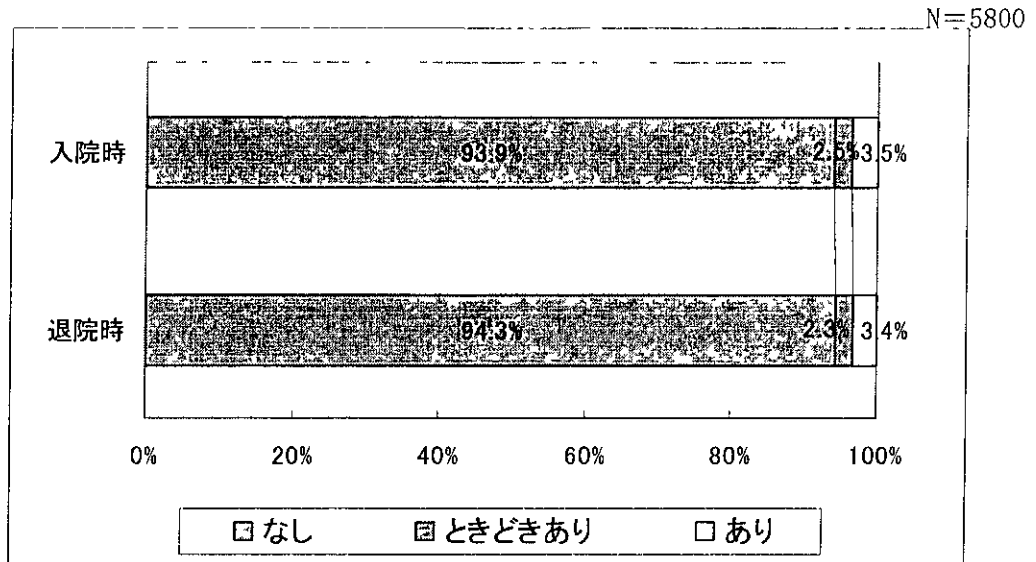


図 3 3 29 処置や治療に対して抵抗する

30) 点滴ライン 3 本以上

「点滴ライン 3 本以上」について、入院時は「なし」が5665名(97.7%)で、「あり」が135名(2.3%)であり、退院時は「なし」が5695名(98.2%)で、「あり」が105名(1.8%)であった。

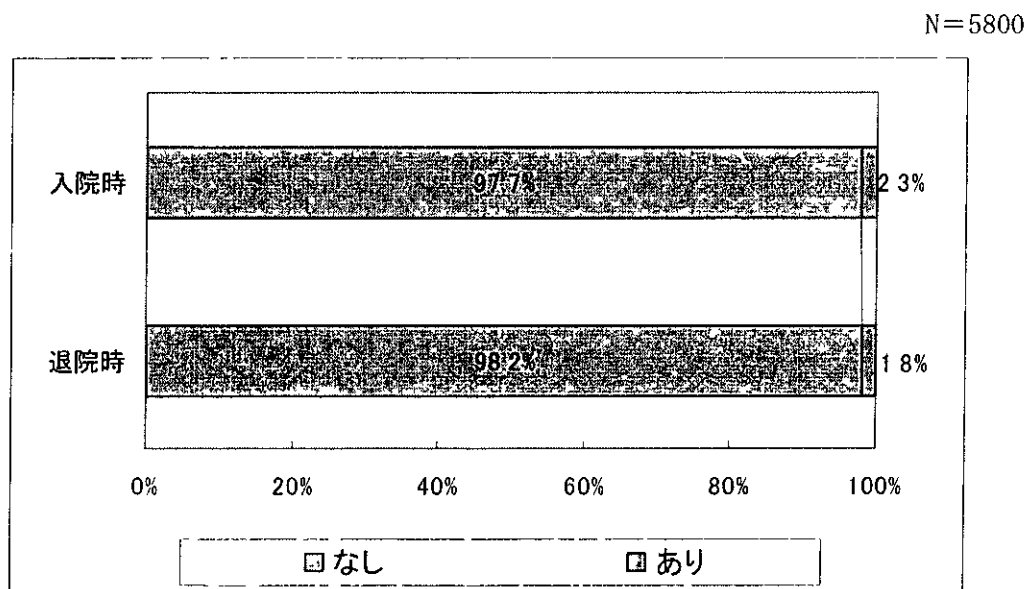


図 3 3 30 点滴ライン 3 本以上

31) 看護必要度

「調査者の判定した臨床的な看護必要度」は、入院時は「1」が 2,851 名 (49.2%)、「2」が 1,546 名 (26.7%)、「3」が 781 名 (13.5%)、「4」が 622 名 (10.7%) という見解であったが、退院時は「1」が 4,064 名 (70.1%) と 7 割をこえる。「2」が 997 名 (17.2%)、「3」が 354 名 (6.1%)、「4」が 385 名 (6.6%) とすべて減少するが、退院時においても、6.6%は、「4」と評価される患者もいることがわかった。

N=5800

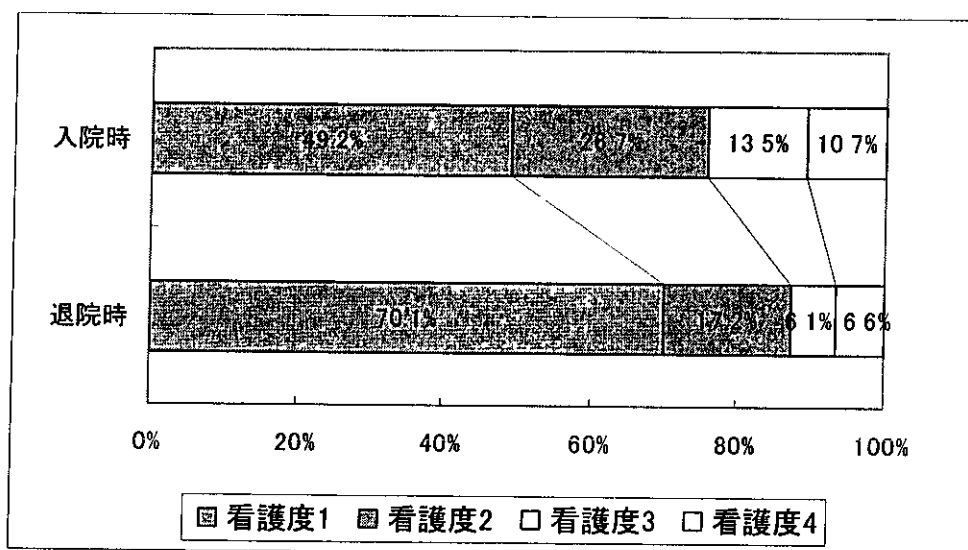


図 3 3 31 臨床的看護必要度

(4) 診断 (ICD10) 別在院日数の分布

診断分類毎の平均在院日数について、検討を行なった。この際、データとしたのは、同一診断名に患者 10 名が示されている診断群で、120 種類の診断について解析を行なった。この結果、平均在院日数が、1 週間以内と示された診断名は 61 種類であった。

ICD10 コートの O06 (詳細不明の流産)、O02 1 (稽留流産)、N47 (包茎)、T50 (薬物中毒)、Z30 3 (中絶)、E80 (ポルフィリンのヒルルヒン代謝障害)、I83 (下肢の静脈瘤)、N97 (女性不妊症)、O80 9 (単胎自然分娩、詳細不明)、R56 (けいれん)、D12 6 (結腸、部位不明)、J02 (急性咽頭炎)、Z34 9 (正常妊娠の管理、詳細不明)、G61 0 (ギランハレー症候群)、B02 (帯状ヘルペス)、O42 (前期破水)、J03 (急性扁桃炎)、I48 (心房細動および粗動)、S83 2 (半月裂傷<断裂><tear>、新鮮損傷)、D37 (口腔および消化器の性状不詳または不明の新生物)、K40 3 (一側性または患側不明のそけいヘルニア、閉塞を伴い、壊疽を伴わないもの)、I20 0 (不安定狭心症) は、比較的、患者による差が小さいが、H25 の老人性白内障などは、2 日から 19 日までの範囲が示され、患者による差が大きいことが示された。在院日数が長い診断名ほど、患者間で在院日数の差が大きい傾向がみられた。

次に、平均在院日数が短い患者の診断名としては、O06 の流産、人工流産等、O02 1 の稽留流産平均 15 日や N47 包茎の 16 日、T50 薬物中毒の 18 日、Z30 3 中絶の 20 日、I83 下肢静脈瘤等の 25 日、G47 睡眠障害、N97 女性不妊症等の 29 日、E80 ポルフィリンのヒルルヒン代謝障害が 36 日、N20 腎、尿管結石の 38 日、G40 てんかんの 39 日、D12 6 結腸部位不明の良性新生物等の 39 日、N13 閉塞性及び逆流性尿路疾患の 40 日、R56 けいれんの 43 日、H25 老人性白内障の 43 日、I61 脳内出血 46 日、I48 心房細動・粗動の 47 日、G61 0 キランハレー症候群の 48 日、S83 2 半月裂傷の 48 日、N80 9 詳細不明の子宮内膜症の 48 日、D37 口腔・消化器系の性状不明、不明の新生物、N83 卵巣・卵管・子宮公間膜の非炎症性障害の 49 日、R10 腹痛、骨盤痛の 50 日などがある。

一方、在院日数が長いのは、D64 9 詳細不明の貧血が 141 日、C50 乳房の悪性新生物が 133 日、C20 直腸の悪性新生物が 127 日、B17 1 急性 C 型肝炎等が 123 日、D40 男性性器の性状不詳又は不明の新生物の 122 日であった。これらの患者に共通しているのは、患者間の在院日数の差が大きいことであり、在院日数は、1 日から 20 日以上在院日数が示されていた。

また、同一診断で患者 50 名が存在する ICD10 コートだけをとりあげ、診断別の在院日数の分布を図 3.3.32 から図 3.3.35 まで示した。

以上のことから、診断分類毎の平均在院日数は、7 日以内の群と 12 日以上群、及びその中間にあたる 8 日以上 11 日以内の 3 群に区分することが可能である。7 日以内群は比較的、診断名が手術や処置あるいは治療法が確立しており、在院日数が短い。しかし、7 日以内群でも標準偏差が 30 以下とそれ以上に大別することが可能である。

この両者を比較検討してみると、30 以上の診断名のほうが患者の病状の程度に差があり、

合併症が存在する場合が少ない、また、その対応方法もさまざまである場合が多い。一方、12日以上の群については、全て標準偏差が62以上であり、患者の病状程度や合併症の有無に加えて、病院間の格差があるとも考えられる。

表333 診断別在院日数の分布（患者数10名以上の診断名の抜粋）

ICD-10	入院期間日数 平均値	最小値	最大値	標準偏差	患者数(人)
D649	141	30	250	73	110
C50	133	20	270	65	190
C20	127	30	230	62	160
B171	123	20	240	75	120
D40	122	40	290	63	170
I21	115	10	250	65	340
H91	112	10	270	71	160
D259	112	20	230	41	520
D39	110	20	230	67	310
C509	106	20	230	57	220
C189	106	20	260	72	290
I49	105	20	210	64	140
I50	105	10	210	62	160
K922	105	10	160	52	170
M05	103	30	240	70	100
E13	103	10	260	70	1300
C16	101	10	250	60	570
C349	101	10	270	68	680
N40	100	30	230	51	260
C22	100	10	220	59	360
E86	99	30	200	69	100
I70	99	20	200	67	100
J43	98	10	180	53	110
M51	98	20	210	69	180
K80	98	20	270	57	690
I63	98	10	300	67	720
I10	93	20	290	70	290
K76	91	10	270	71	140